

普仙寺だより

<<

>>

第159号 平成20年9月



普仙寺総代さんの皆さんに盆前の大掃除をして頂きました
平成20年7月27日撮影

懺悔（さんげ）

仏教では、自分の過去の悪い行いを告白し、悔い改めることを、懺悔（さんげ）といいます。

「懺悔」の「懺」は「許しを願う」意味のインド語「クシャマ」の音訳「懺摩（さんま）」の略字形であり、「懺悔」の「悔」は「自分の過失に気づき、反省する」意味の漢字で、「懺悔」はインド語と漢語の合成語です。

「懺悔」するとは、自分の過去、現在に向き合う事です。悪い行いとは何なのか。皆がしていることならば、悪いことでも許されるのか。それは仕方のないことなのか、時には足をとめて考えてみましょう。

高万灯起し

去る7月27日、普仙寺総代会・華頂婦人会の役員の皆さんには、お盆前の大掃除をして頂き、ありがとうございました。
また、総代さんには、初盆の高万灯を起して頂きました。重ねて御礼申し上げます。



本堂前に立てられた高万灯。平成20年7月27日

800年前の法然上人

今から800年前、承元2年(西暦1208年)の9月、法然上人にはどのようなことがあったのでしょうか。

法然上人は、後鳥羽上皇の命によって四国流罪となり、前年の3月16日京都を出発して讃岐生福寺に留まられていました。同年12月8日、流罪を許す命が下りました。しかしながら、京都に戻ることは許可されず、摂津の国勝尾寺に行くこととなりました。

800年前の今月、おそらく法然上人は、勝尾寺に居られたと思われます。

灯籠流し

8月16日の夜7時より7時30分まで市場記念碑下の柳生川河岸にて灯籠流しを行いました。

6時30分頃より灯籠を手にした檀信徒の皆さんが河岸に来られ、普仙寺の総代さんに手伝って頂きながら灯籠を乗せる丸板に取り付け、中のロウソクに転倒しました。そして、位牌に水向けしてお参り。

7時に住職が位牌の前で読経。その後、点灯された灯籠を家族が手に持ち水辺に進みました。

灯籠は連結され、船で沖へ曳いてもらいました。

檀信徒の皆さんは明かりが消えるまで見送っていました。





平成20年8月16日柳生川にて灯籠流しをしました

寺行事案内

土曜礼拝（どようらいはい）

毎週土曜日 午前8時30分～9時

礼拝を含むお勤めです。本家、新家の別なく、どなたでもお参り下さい。

秋彼岸会（あきひがんえ）

9月23日（火・祝） 午後1時～2時30分

檀信徒各家のご回向を致します。

御回向の方法に2種類ありますので、どちらかひとつをお選び下さい。

1. 封筒読み上げ回向

彼岸回向封筒に記入された先祖代々名または戒名を読み上げて、ご回向します。

回向料はお気持ちです。

2. 塔婆回向

先祖代々名または戒名の塔婆にてご回向します。

所定の申込用紙にて事前にお申込下さい。回向料は1霊3,500円です。

秋の茶会（あきのちやかい）

9月23日（火・祝） 午前9時～午後1時

檀信徒会館の和室でお抹茶をご用意します。